

PTAだより 第41号 (一部抜粋)

笑顔

PTA会長

I A

今年度PTA会長をさせていただくことになりました、小学部五年I・Kの母です。昨年、副会長をさせていただきましたが、今年度は会長として、一年間子どもたちのために精一杯頑張りたいと思っておりますので、皆さんよろしくお願いいたします。

まず始めに、五月に開催されました中国・四国地区盲学校PTA連合会並びに合同研究協議会が、皆様の御協力のおかげで無事に終わりましたことに深く感謝申し上げます。ありがとうございます。

早いもので息子が入学して五年の月日が経ちました。入学してから息子もいくつもの壁にぶつかりましたが、その度に強くたくましく成長していることを実感しています。学校や寄宿舎での様子を見ると、学部を超えた生徒さんや先生方から声を掛けていただき、キラキラした息子の楽しそうに笑っている顔を見るた

びに、私も笑顔になりとても元氣をもちることができています。

今年も楽しみにしていた運動会がありました。先生方が一人一人の児童・生徒に合わせて工夫された競技になっており、学校全体が一つになり声を掛け合い応援する姿は、いつも感動させられます。このような場面を見るたびに、「盲学校へ入学して良かったなあ、たくさんの経験がこの先息子にとって、貴重でかけがえのないものになっている。」と私は思っています。

そして、このような経験に感謝するとともに、たくさんの人に役立てる人に成長してもらいたいと願っています。私自身も一緒に成長したいと思えます。これからも笑顔でいっぱい学校生活を送れるように、私も笑顔で皆さんと一緒に頑張りたいと思います。



一歩ずつ…

PTA副会長

TR

今年度PTA副会長をさせていただくことになりました、中学部二年T・Sの母です。娘が盲学校に入学して二年目になります。声を掛けてくださった時に、私が副会長でいいのか：と、戸惑いもありました。まだまだわからないことが多く、皆さんに助けをもらうことも多くあると思います。子供たちや学校のために頑張りたいと思いますので、御協力よろしく願います。

娘も二年目になり学校にも寄宿舎生活にも少しずつ慣れてきたように思います。盲学校でないとできない様々な体験をたくさんさせてもらい、一つ一つが自信につながり大きく成長し、いつも見守ってくださっている先生方に感謝しています。

娘の頑張っている一つにサウンドテーブルテニスがあります。大会にも参加をさせてもらい、うれしく出る涙、悔しくて出る涙どちらも目にする場面がありました。負けず嫌いの娘ですが、今までは勝負をすることがあっても、「負けたくはないけれど、まっ、勝てないか：。」ぐら

いの気持ちで、みんなに「よく頑張ったね」と言ってもらえる：そんな環境でした。でも、盲学校に入学し娘の気持ちや考え方も少しずつ変わってきたと私も感じ、一生懸命頑張る姿に元氣をもらっています。

先日、私は中国・四国地区盲学校PTA連合会並びに合同研究協議会に参加させていただきました。初めての会でもありどんなことを話すのかと不安もありましたが、他県の盲学校のことやお子さんのことなど情報交換させていただき、勉強になることがたくさんありました。知らないことも多く、娘の将来を考えているようで今しか見えない自分もいると感じました。将来、子供たちができるだけの選択肢の中から選び、考える力や適応できる能力などを身に付けられるように自分も少し頑張ってみようと思います。一年間よろしく願います。



夢の実現に向って

校長

大西 俊一

今年度の始まりは、五月から新元号に変わるといふ高揚感が手伝って、ポジティブな心境で迎えることができた。そんな時、大学時代の友人Mからメールが届いた。大学卒業後それぞれので教員になり、互いの結婚式に出席した後は、賀状のやりとりだけが続いていた学生時代の親友だ。数年前、勤務校の修学旅行中にお台場のフジテレビ前で「めざましどようび」のインタビューを受けそれがオンエアされた時、社会人になったばかりの息子さんが新橋で同じインタビューを受け、映るかも知れないということ、早朝から録画していたらしく、「息子は映ってなかったけど、五〇代・教員、大西に間違いない」と二十数年ぶりにわざわざ私の自宅に電話をかけてきてくれたというマメな男である。ネットの見逃し動画で検索すると、約七秒、私の全国デビューの雄姿が…。以来、上

京の間に連絡を取り合うようになったのだが、その一年後、都立の進学校に務めるMから「四月から受け持つ学年に全盲の女子生徒Aが入学して来るんだよ。お前の母校（当時の私の勤務校新居浜西高校）で、何年前かに東京大学に合格した生徒がいたる？」と相談を受けた。あれから三年、その時のAさんが、この四月、早稲田大学の先進理工学部・応用物理学科に入学したという「A E R A」のネット版記事をメールで送ってくれたのである。また、和歌山の全盲の女子生徒Sさんが推薦入試で東京大学の教育学部に合格したということも教えてもらい、ネットで詳細を知ることができた。

二人は、小学校低学年で全盲となり、中学部まではそれぞれ筑波大学附属視覚支援学校、和歌山県立和歌山盲学校で学んで基礎基本をしつかりと身に着け、高校は地元の進学校に進み、教材等の点訳は盲学校も支援したようだ。

ネット版記事によると、Aさんは、「私は割と早い段階で失明したので、

点字の習得がスムーズだったと思います」大変な努力をしたのでは——と聞くと、「努力というより、必要に迫られたから」とリアルな返答。「他の人ならよさそうな参考書をパツとほかで見て選んで学べるけど、私は学校購入したものを泥臭く繰り返し解くしかありませんでした」「推薦入試の話もありましたが、特筆できる卓越教科がなかったので一般入試で真つ向勝負しようと決めました」「宇宙論や素粒子などの分野で基礎研究を進展させられるような研究者になることをめざします」と気持ちの強さが聡明な受け答えに表れている。Aさん母子とは友人のMを通じて東京出張時に対面を果たし、話を伺うことができた。

一方、Sさんは、二歳からピアノを習って腕を磨き、中学一年で韓国の音楽祭に招待されて演奏した時に、他国の学生が通訳なしで流暢に英語を話すことができたのに自分は自己紹介程度だったという経験を「悔しかった。力をつけたいというモチベーションになった」と振り返り、高

校一年生で訪れた修学旅行先のカナダで、パキスタンからの移民一家の自宅にホームステイして教育について話した際に、ホストマザーに「教育の機会を与えられたことに感謝すべきだ。世界には学校に通えない子どもがいる。恵まれた環境に感謝し、将来は国際貢献できる人間になりたい」との熱い思いに触れ、教育の道に進む決意をしたらしい。異国の全盲の少女に、このようなことが言えたホストマザーの凄さを感じずにはいられない。恐らく母国で大変な苦勞をされたのだろう。Sさんの心に火をつけた正に神の声のような言葉を受け、「ユネスコなどの国際機関で働くことが将来の夢。国際的な教育格差の改善に貢献し、世界でも活躍できる人間になりたい」と力強く語る。

二人とも本当に大きいものを見ている。



踏み出した二歩目の春

Y A

中学部入学式を迎え、青空が広がりほんのり桜の香りとともに、真新しい制服姿の娘を目にすると、小学部を卒業してから一カ月も経っていないのに、ちよっぴり大人びて見えました。

去年からデザインが変わり、かわいくなつた制服が着られることを娘はとても楽しみにしておりました。

最初は、中学生になる期待と不安から少し緊張気味でしたが、盲学校での生活も二年目となり、昨年より落ち着いているように感じ、私も安心していきます。日常生活や学業の両面において、娘なりに努力して力を付けてきている姿を見て、親としてうれしく感じています。

娘は、今年三つの部活動に入部しました。今までは一つしたら十分という感じだった娘が意欲的になつていることに娘の成長を感じられ、親として喜びを感じています。娘が成長しているのは、本人の頑張りはもちろん、周りの環境や人間関係が大きく影響していると思います。

私も娘の意欲にはかないませんが、PTA活動等において、私なりにできることに挑戦していけたらと思います。

平成から令和へと新たな時代に移り、新たな気持ちで、二歩目を親子で進んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



高等部へあがって

N H

時の経つのは早いもので、息子が高等部へ進学して二ヶ月。運動会も終わり、六月後半からは現場実習も始まります。真新しくつた作業服も随分と板についてきたように思いますが、農業で初めて収穫したスナックエンドウは、とてもおいしいものでした。

高校時代は、子供たちにとって、将来何をしたいか、自分はどうな人間なのか、自分自身の力で考えて進んでいく、自立の時期でもあります。超低出生体重児として生まれ、振り返ってみると、幼い頃から自立を目標に療育機関に通い、リハビリ等を行ってきました。それは今も続いています。息子にとって何がいいのか、必要なかと考えている間に、もう高校生になり将来への不安を感じて

います。

しかし、学校や寄宿舎の先生方、いろいろな人と接する中で多くのことを学び、いろいろな経験をさせていっていて、自信も付き、日々成長していくことができています。以前と違い、何かあっても気持ちの切り替えができるようになったり、「歌を歌うと元気になるよ。」と自分をコントロールしたりもしています。

学校卒業まで、三年となりましたが、残された学校生活を精一杯息子らしく、元気で明るく過ごしてくれたらと思います。最後になりましたが、これからも親子共々よろしくお願ひいたします。



はじめまして。お久しぶりです。

K S

娘は中学三年間東京へ行っていました。いろいろありましたが、とてもいい出会いや経験をすることができました。今回はその中で知ったUDキャストというアプリを紹介

しようと思ひます。

突然ですが、皆さんは映画を観に行きますか？映画を観に行き、「しーん」とした映画館で映像の説明をするのって難しいですよ。（我が家では、このアプリを知るまで、映画が終わったあと、娘が不機嫌になつていくことがよくありました。）このアプリはテレビの音声ガイドのような役割をしてくれます。すべての映画には対応していませんが、最近が増えてきているようです。このアプリをインストールして映画を観る前に登録を済ませ、スマホとイヤホン持参で映画館へ行けば、一人で映画を楽しむことができます。今では娘も私もストレスなく映画館で映画を楽しむことができます。（余談ですが、このアプリのおかげで私は女子中高生が観るような恋愛映画のシーン説明をしなくてよくなったのです。娘もそんな説明を親にされたくないかつたことでしょう。）ありがたいアプリです。ちなみにこちら、映画館で対応となつた作品はレンタルになつても同じように楽しめるようです。

他にも、カラオケに行つて自分で曲を入れることのできるアプリもあるようです。知らないだけで普段の生活が楽しくなるようなツールは他にもたくさんあるはず。みんなで共有し、

生活を豊かにしていけるとうれい
です。



盲学校での十三年

NH

「優しくて強い人に育ってほ
いす」確か入学当時、先生に支援
計画のようなことを聞かれて、悩み
絞り出した私の返答でした。今考え
ると、質問の意図からは的外れな返
答だったのかなと思います。

その頃の私には、十三年後の高校
三年生になった姿は全くもって想像
もつかなかったし、それどころか息
子がママ！ママ！と泣き叫ばなくな
るのか、誰にでも自分の意見を話せ
るようになるのか、ましてや点字を
理解する日が来るのかなど考えられ
ませんでした。正直に言うとも目の前
の頼りない小さな息子の将来をイメ
ージすることができていませんでし
た。

しかし時は流れ、身長も昨年遂に
私を超え、肩幅もしっかりと大人の
体格に成長を遂げました。そして今
となつては、お願いしてもママなん
て呼ぶことは決してないし、点字も

扱うことができるようになりました。
自分自身の好きなこと、得意と言え
ることを見付けるまでに育ってくれ
ました。

それは十三年の時間の中で出会っ
た先生方の可能性を見抜く力と、息
子のことを信じ続けてくださったお
かげだと確信しています。未熟な母
親も含め、時に励まし一緒に涙して
くださった先生に感謝の気持ちでい
っぱいです。

そして本人も、きっと私には計り
知れない悔しい思いや辛いこととき
ちんと向き合って乗り越えてきたん
だと思います。

息子の傍にいと、人と比べるこ
との意味のなさ、自分が得意と思え
ることを持つことがどれだけ日常に
彩を与えてくれるかなど、教わるこ
とがいろいろあります。私も負けて
いられません。何歳になつても成長
できるよう一日一日丁寧に過ごさな
くてはと思います。

そして最後に。やっぱり、優しく
て強い人になつてくれたらうれしい
な。



十三年ぶりの松山盲学校

MY

平成最後の桜の花が咲き誇る四
月八日、私たち親子は約十三年ぶり
に松山盲学校の門を潜りました。

娘が誕生した当時は、夫婦で育児
相談に、娘が小学校に入学する頃か
らは教育相談でこの松山盲学校にお
世話になり、小学部六年間を過ごし、
中学からは娘の「友達がほしい」と
いう一心で東京にある筑波大学附属
盲学校に進学しました。都心で様々
な人たちに囲まれ、経験を積み、本
人の夢を目指し、高等部・大学へと
娘の望む道を進んできましたが、そ
の期間は親子共々、悩み・苦しみ、
そして一つのことを一つずつやり遂
げてきた日々でした。

今回も、様々な人たちの御指導・
御支援の声に、娘も新たな望む道を
進むために、再び、松山盲学校の門
を潜りました。

十三年前、松山盲学校の小学部を
卒業してから、当時お世話になつた
先生方も退職され学校の様子もだい
ぶ変わったというのを聞いていた
ので、最初は親子ともに不安があり
ましたが、理療科の先生は、昔から
変わっておらず、娘を温かく受け入
れてくださいました。

娘が県外にいた時期が長かつた

め、今は近くで、娘が生き生きと学
業に励んでいる様子を見守ることが
でき、うれしく思っています。娘に
は是非十三年前と同じようにこの学
校で様々な経験をし、「あんま・針灸」
の技術だけではなく、再び社会で生
活する上でのコミュニケーション能
力も身に付けてもらいたいと思つて
います。

三年後には再び愛媛から離れる
ことになるかもしれませんが、充実
した学生生活を送ってもらいたいで
す。

編集後記

P T A だより第41号の一部を抜
粋して、ホームページに掲載させて
いただきました。最後まで読んでい
ただき、ありがとうございます。

